

JIPDECセミナー 講演資料

## 「AIMS適合性評価制度の概要」

本資料は、JIPDECセミナー「AIのリスクマネジメントとAIマネジメントシステム（AIMS）認証の最新動向」（2026年4月20日までのオンデマンド配信）の資料です。セミナーお申込み者様限定での配布となりますので、WEB、SNS等への掲載、転載はご遠慮ください。

# AIMS適合性評価制度の概要



一般社団法人情報マネジメントシステム認定センター  
(ISMS-AC)

2026年3月16日

## 郡司 哲也

一般社団法人情報マネジメントシステム認定センター(ISMS-AC)

認定主任審査員(ISMS/ITSMS/BCMS/AIMS)

[一般財団法人日本情報経済社会推進協会(JIPDEC)

セキュリティマネジメント推進室 室長]

## ■略歴

1997～ 地理情報システム(GIS)開発 及び 地理空間情報の国際標準化活動(ISO/TC211)に従事

2012～ JIPDEC入社

地理情報(G空間プロジェクト)やプライバシー関連の中央省庁プロジェクトの企画提案～  
各種実証・調査業務に従事

APEC CBPRシステムの制度立ち上げ、GDPR仮訳等、主にプライバシー関連の事業を実施

2020～ ISMS-AC出向(JIPDEC兼任)

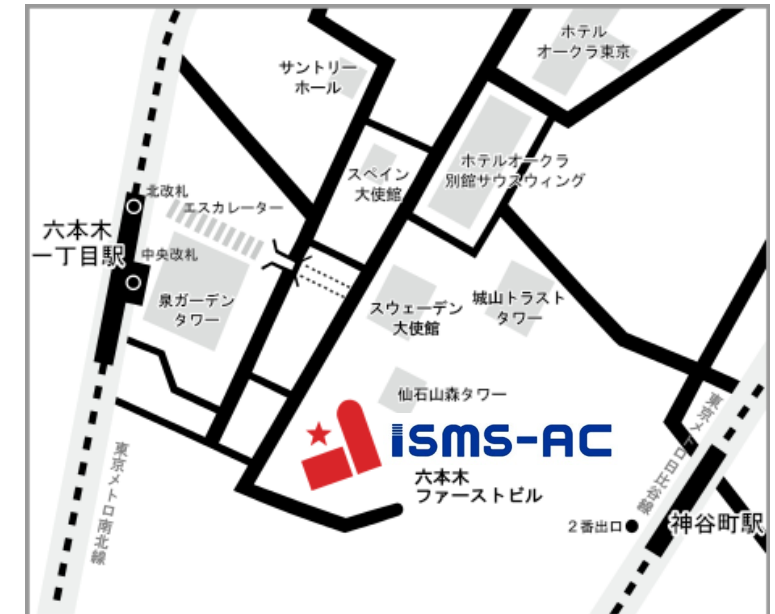
ISMS-AC認定審査員として、マネジメントシステム認証機関の認定業務に従事

JIPDECセキュリティマネジメント推進室として、ISMSに代表される情報マネジメントシステム適合  
性評価制度の普及を推進

2024年4月より現職

## 一般社団法人情報マネジメントシステム認定センター(略称:ISMS-AC) (<https://isms.jp/>)

- 設立年月日:2018年4月2日
- 所在地:東京都港区六本木一丁目9番9号 六本木ファーストビル内
- 代表理事:山内 徹
- 目的及び事業
  - ・マネジメントシステムの認証機関の認定
  - ・国際レベルの認定機関間の相互承認



# ISMS-ACのあゆみ



2002年	JIPDECとして、ISMS適合性評価制度の正式運用開始
2006年	<u>アジア太平洋地域の認定機関の連盟(現APAC)</u> に加盟
2007年	<u>全世界の認定機関のフォーラムであるIAF</u> に加盟
2018年	<p>認定機関としての独立性、公平性をより確実にするため<u>JIPDECから分離</u> 一般社団法人情報マネジメントシステム認定センター (ISMS-AC) として 別法人化</p> <p>ISMS-ACがAPAC及びIAFにおける国際相互承認協定に署名</p> <p>➡ISMS-ACが認定した認証機関によるISMS認証は、<b>世界各国の認証機関によるISMS認証と同等</b>と認められる。</p>

# 情報マネジメントシステム認定センター (ISMS-AC) の役割



The screenshot shows the ISMS-AC website homepage. At the top, there is a navigation bar with the ISMS-AC logo and name in both Japanese and English. Below this, there are four main menu items: 'ISMS-ACについて' (About us), '認定スキーム' (Schemes), '認証機関一覧' (Accredited bodies), and '登録組織検索' (Certified org.). There is also a language selector for 'ENGLISH' and a search bar. The main content area features a large banner with the ISMS-AC logo and text explaining its role as an accreditation body for management system certification. Below the banner, there is a section titled 'ISMS-ACの認定スキーム' (ISMS-AC Accreditation Schemes) which lists four schemes: ISMS (Information Security Management System), ITSMS (IT Service Management System), BCMS (Business Continuity Management System), and AIMS (AI Management System). To the right of these schemes, there are links for '基準・ガイド' (Standards and Guidelines) and 'FAQ・リンク集' (FAQ and Link Collection).

情報マネジメントシステム認定センター  
ISMS Accreditation Center

ISMS-ACについて  
About us

認定スキーム  
Schemes

認証機関一覧  
Accredited bodies

登録組織検索  
Certified org.

ENGLISH

お問い合わせ

サイト内検索 検索

ISMS-ACは、マネジメントシステム認証機関の能力を評価する認定機関です。

認定された認証機関による認証には、国際規格の要求事項を満たしている第三者証明であるという付加価値があります。

ISMS-ACの認定スキーム

**ISMS**  
適合性評価制度  
情報セキュリティマネジメントシステム適合性評価制度

**ITSMS**  
適合性評価制度  
ITサービスマネジメントシステム適合性評価制度

**BCMS**  
適合性評価制度  
事業継続マネジメントシステム適合性評価制度

**AIMS**  
適合性評価制度  
AIマネジメントシステム適合性評価制度

基準・ガイド

認証機関に対する書類類

認証基準・ガイド等

引用・転載の許可申請

FAQ・リンク集

FAQ (よくある質問)

ISMS-AC Webサイト <https://isms.jp/>

# 適合性評価制度における認証の位置づけ

規格等で定められた**要求事項が満たされていること**を実証する「適合性評価」に係る活動(試験、認証等)は、その主体により以下の通り分類される

- ✓ 第一者(自社)による自己宣言
- ✓ 第二者(取引等の発注者)による監査
- ✓ 第三者(**独立した適合性評価機関**)による審査

適合性評価制度の主役である  
**認証機関の信頼性の担保**  
が重要  
||  
認定(Accreditation)

## 認証機関

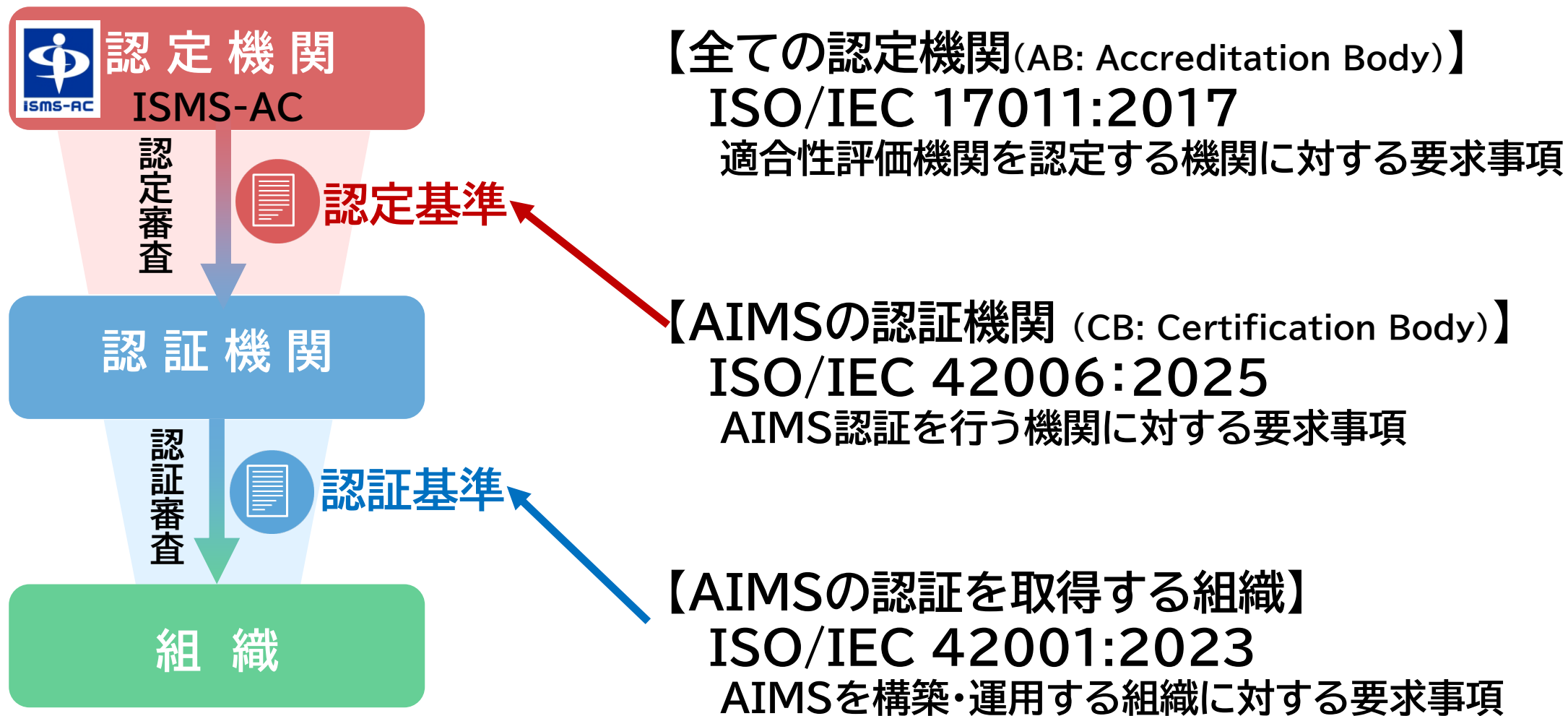
(CB : Certification Body)

〔 マネジメントシステム、製品・プロセス・サービス及び要員の認証を行う適合性評価機関を認証機関と呼ぶ 〕

認証(Certification)

認証の対象  
マネジメントシステム、製品・プロセス・サービス、要員 等

# AIMS適合性評価制度における認定と認証



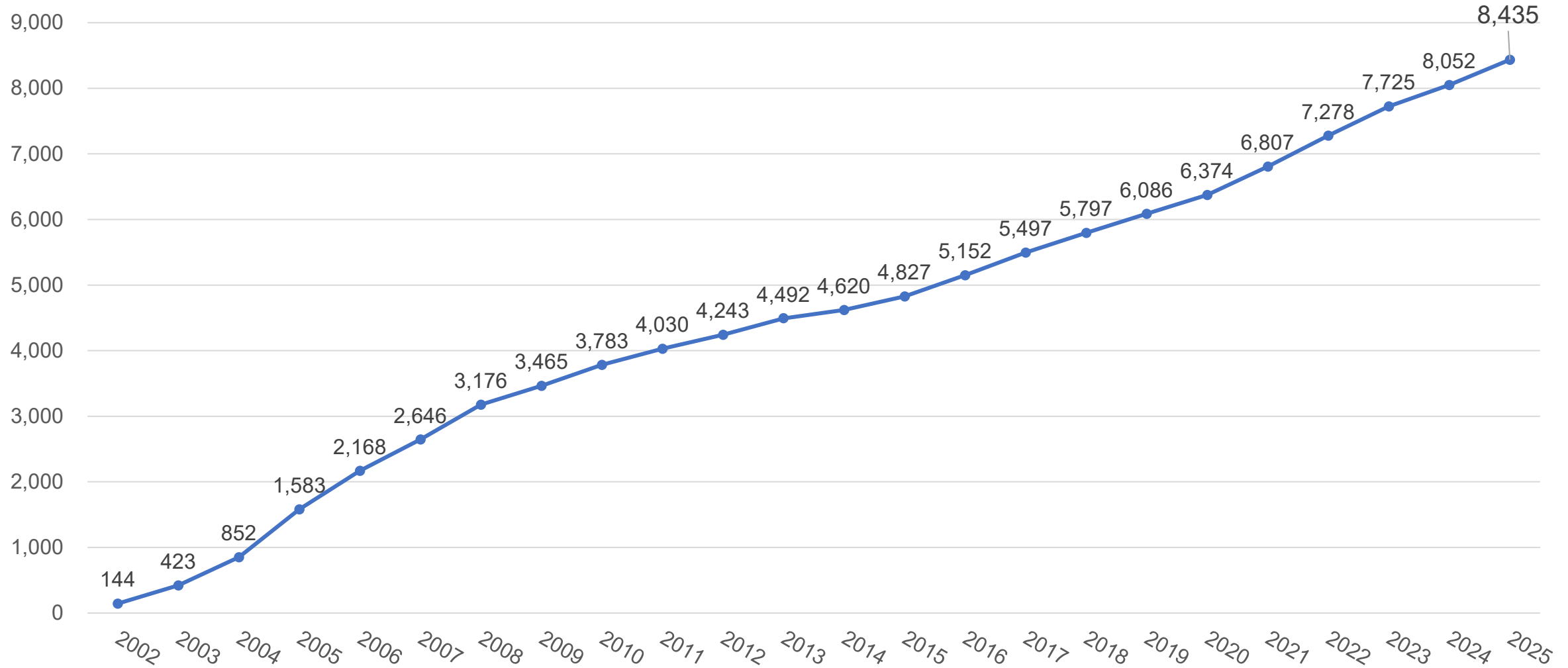
# ISMS-AC認定のISMS認証機関



■ISMS-ACは、27のISMS認証機関を認定(認定番号順)

認証機関		認証機関	
1	一般財団法人 日本品質保証機構 マネジメントシステム部門	15	ビューローベリタスジャパン株式会社 システム認証事業本部
2	日本検査キューエイ株式会社	16	公益財団法人 防衛基盤整備協会 システム審査センター
3	BSIグループジャパン株式会社	17	SGSジャパン株式会社
4	一般財団法人日本科学技術連盟 ISO審査登録センター	18	一般財団法人ベターリビング システム審査登録センター
5	日本規格協会ソリューションズ株式会社 審査登録事業部	19	日本海事検定キューエイ株式会社
6	株式会社日本環境認証機構	20	国際システム審査株式会社
7	DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社	21	エイエスアール株式会社
8	国際マネジメントシステム認証機構株式会社	22	日本化学キューエイ株式会社
9	一般社団法人日本能率協会 審査登録センター	23	ドイツ品質システム認証株式会社
10	ペリージョンソン ホールディング 株式会社 ペリージョンソン レジストラ	24	一般財団法人 電気安全環境研究所 ISO登録センター
11	一般財団法人電気通信端末機器審査協会 ISMS審査登録センター	25	アイエムジェー審査登録センター株式会社
12	テュフ ラインランド ジャパン 株式会社	26	アームスタンダード株式会社
13	株式会社マネジメントシステム評価センター	27	ISサーティフィケーション株式会社
14	株式会社 ジェイヴァック		

# (参考)ISMS-AC認定下のISMS認証組織数



(件数は各年度末。2025年度は2026年3月6日現在)

News  
Release

**JIPDEC**

2026年1月14日

一般財団法人日本情報経済社会推進協会

## ISMS-AC が国内の認証機関に対して初の AIMS 認定！ SGS ジャパン株式会社、テュフ ラインランド ジャパン株式会社の 2 機関

一般財団法人日本情報経済社会推進協会（所在地：東京都港区、会長：杉山秀二、以下 JIPDEC）の関連法人である一般社団法人情報マネジメントシステム認定センター（所在地：東京都港区、代表理事：山内徹、以下 ISMS-AC）は、AI マネジメントシステム（AIMS）適合性評価制度において AIMS 認証を提供する以下の2つの認証機関を認定しました。

### ■SGS ジャパン株式会社

（本社所在地：神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町 134 番地 横浜ビジネスパーク ノーススクエア I 3 階）

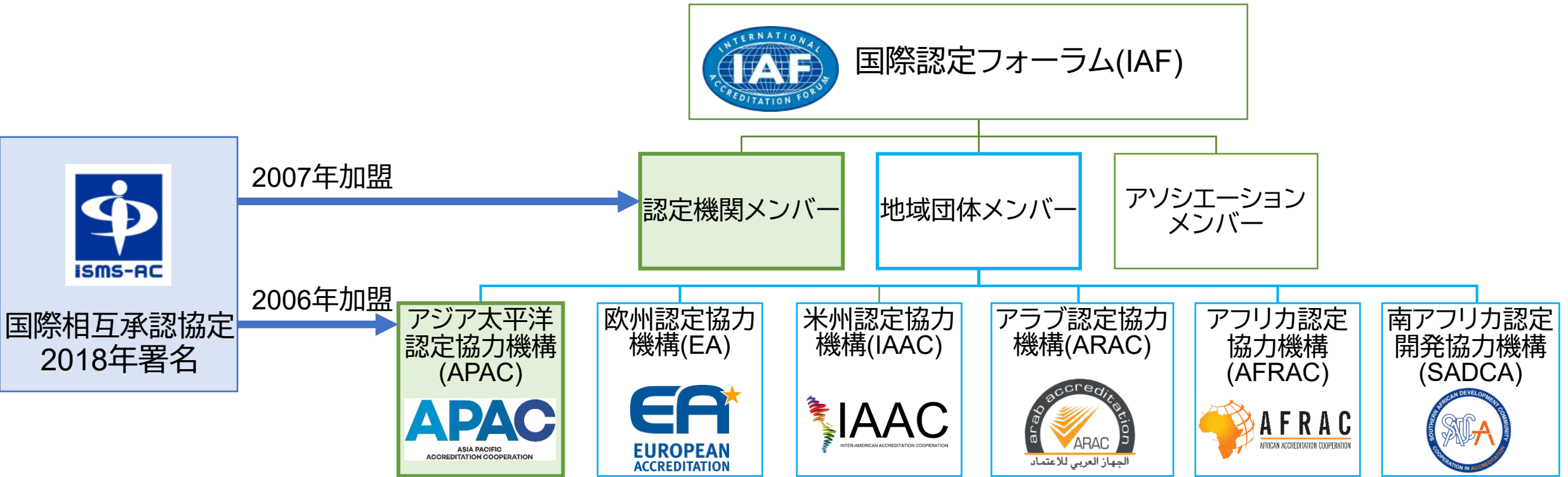
### ■テュフ ラインランド ジャパン株式会社

（本社所在地：神奈川県横浜市港北区新横浜 3-19-5 新横浜第二センタービル）

<https://isms.jp/topics/news/20260114.html>

# 国際的な認定機関のフォーラムの構成

## ■全世界のフォーラムと地域毎のフォーラムが存在

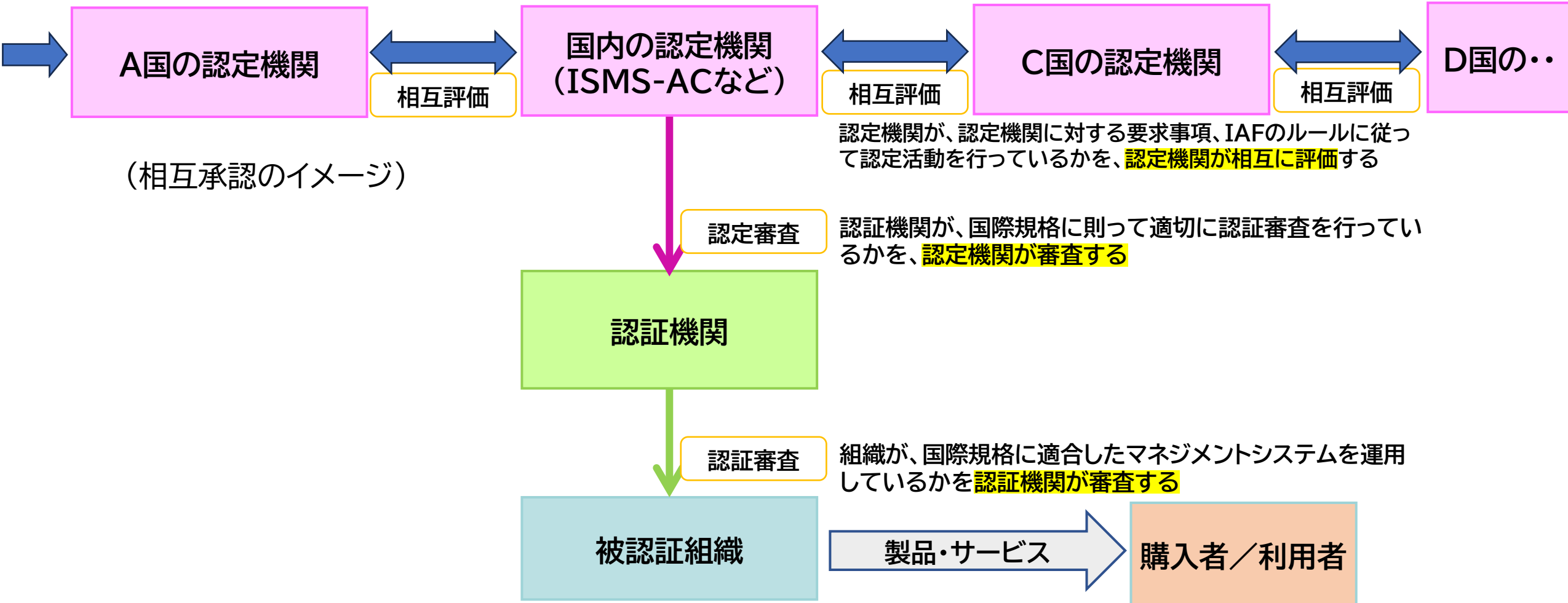


(注1) ISMS-ACは、2018年、ISO/IEC 27001に基づくISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)の相互承認協定に署名

(注2) IAFは、2026年1月、ILACと統合して、Global Accreditation Cooperation Incorporatedに組織替え

# 国際相互承認協定(MRA)の意義・役割

## ■ 認定機関の間の相互評価を通じて、国際的な認証の同等性を担保



- 2024年7月にアラブ首長国連邦(UAE) で開催されたAPACの相互承認協定 (MRA) 諮問会議において、以下の内容が合意された

APACの相互承認協定 (MRA) のスコープに、  
ISO/IEC 42001に基づくAIMS認証に対する認定を追加する

- 近い将来、APACに加盟する認定機関が認定した認証機関によるAIMSの認証の国際的な同等性が担保される見込み



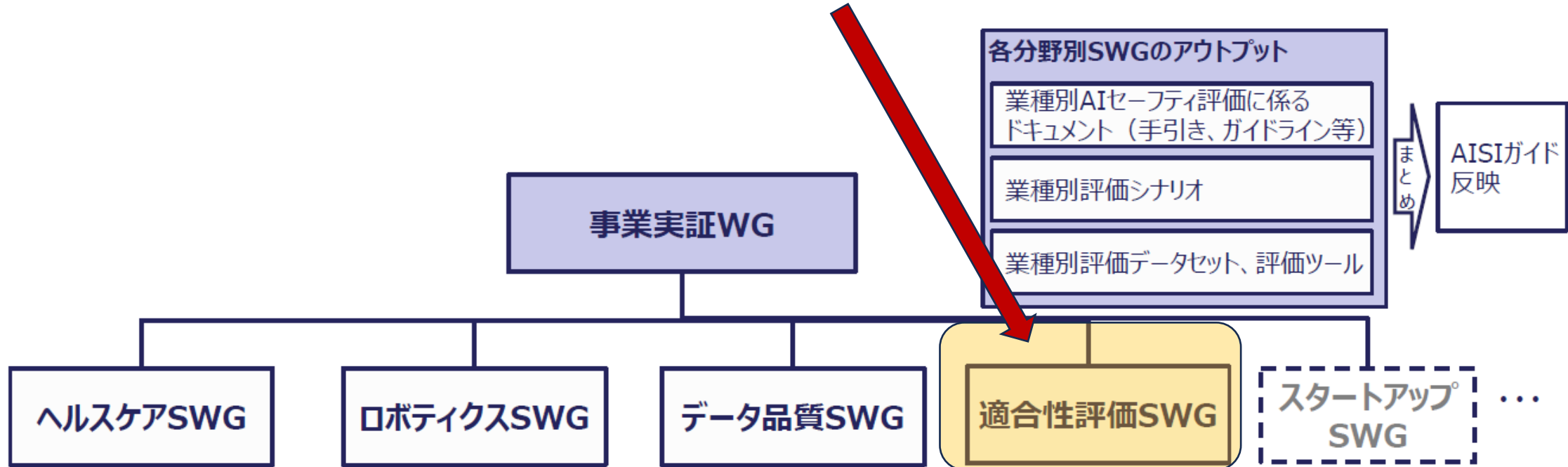
日本としても、国内の認証機関によるAIMS認証を普及させるとともに、AIMSの国際相互承認協定への準備に早急に着手する必要がある

# AIマネジメントシステム(AIMS) 適合性評価制度への期待

# AIのガバナンスに係る国内外の動向

2023年5月:	G7広島サミットの結果を踏まえ「広島AIプロセス」の立ち上がり
2023年12月:	<b><u>ISO/IEC 42001:2023の発行</u></b>
2024年4月:	英米に続いて、日本政府はAIセーフティ・インスティテュートを発足
2024年4月:	総務省及び経済産業省による「AI事業者ガイドライン(第1.0版)」の公表
2024年5月:	EUの「Artificial Intelligence Act(欧州AI法)」が成立
2024年8月:	内閣府「AI制度研究会」の開催、法整備に向けた有識者会議
2025年5月28日:	「人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関する法律(AI推進法)」の成立
2025年7月7日:	<b><u>ISO/IEC 42006:2025 AIMSの審査及び認証を行う機関に対する要求事項の発行</u></b> <b><u>➔ 翌日(7月8日)、ISMS-ACによる認定開始</u></b>
2025年12月23日:	人工知能(AI)基本計画の閣議決定
2026年1月14日:	ISMS-ACが国内の2つの認証機関に対して初のAIMS認定!

- AIセーフティ・インスティテュート は、AIセーフティ評価に関するワーキンググループ(事業実証WG)を設置
- 業界ごとのAIセーフティ評価に関する見解をまとめ、具体的な実証をする等のWG活動を推進し、業界ごとに特化されたガイド等を作成・普及
- 適合性評価SWGに、ISMS-ACの山内及び畔津が参加



## ■背景

- AIの急速な普及による生活の向上、経済の発展の寄与への期待の高まり
- バイアス、AIによる詐欺等の犯罪の巧妙化、偽・誤情報の作成による情報操作等多様なリスクの顕在化
- EU、米国、中国等におけるAIに対する法規制の動き

## ■ISO/IEC 42001の位置づけ

- AIMSに関する国際規格
- AIシステムライフサイクル全体におけるリスク(バイアス、誤判断、プライバシー侵害など)の管理とガバナンス(説明責任、セキュリティ、法規制対応)の枠組み
- ISO/IEC 42001は、日本のAI政策(安全・安心、説明責任、透明性)を国際的な標準に沿って実装するための「実務的なツール」であり、国内ガイドラインと国際規制の橋渡し役

## 【規定されている事項】

- 組織の状況の下でAI(人工知能)マネジメントシステムを確立し、実施し、維持し、継続的に改善するための要求事項について規定し、手引を提供

## 【規格の意図】

- AIシステムを活用した製品又はサービスを提供又は利用する組織によって使用される
- 組織がその目的を追求する上で責任をもって、AIシステムを開発、提供又は利用し、適用される要求事項、利害関係者に関連する義務、及び利害関係者からの期待を満たすために役立てる

## 【想定する利用者】

- 組織の規模、業種・形態及び性質を問わず、AI システムを活用する製品又はサービスを提供、又は利用する全ての組織

## 【他のマネジメントシステム規格との両立性】

- 組織でAIを利用することで生じる課題及びリスクをマネジメントするに当たって固有の要求事項を提供する
- 他のマネジメントシステム規格の実施及び一貫性を容易にする

# ISO/IEC 42001 AIマネジメントシステムの概要

## ■ 組織が構築するAIに係るマネジメントシステムの要求事項

- PDCAサイクルに基づくマネジメントシステムの確立、実装、維持及び継続的な改善に関する要求事項を記載

## ■ ISMS認証基準であるISO/IEC 27001をベースとした構成

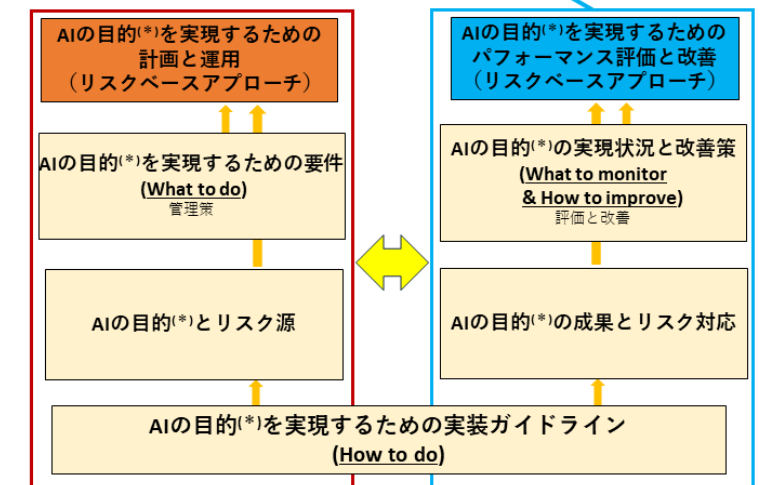
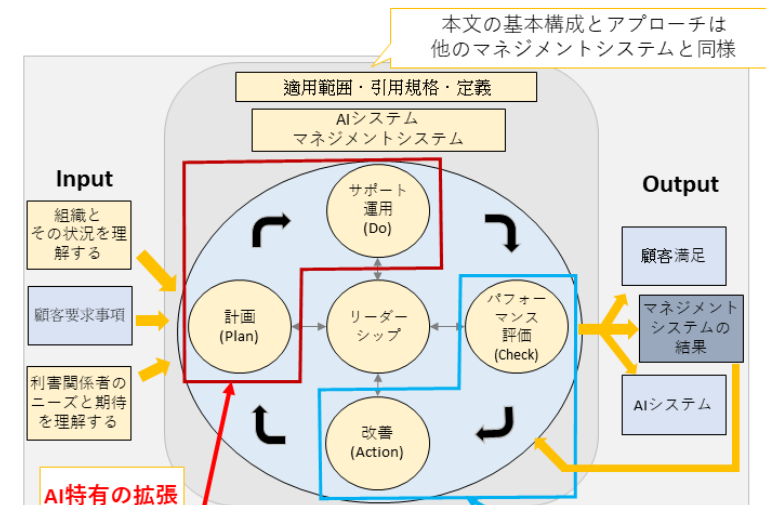
- AIシステムの利活用(開発、提供、利用)に関連するリスクを特定し、その評価・対策を行う(リスクマネジメント)のアプローチ

## ■ 特定されたリスクに対処するための9つの目的と38の管理策

- データガバナンス、ライフサイクル管理、AIシステムの検証及び妥当性確認など

## ■ AIシステムに対する組織の役割

- AI producer(AIプロデューサー)  
AIシステムを使用する製品又はサービスを設計、開発、テスト及び展開する組織
- AI provider(AI提供者)  
AIシステムを使用する製品又はサービスを提供する組織
- AI customer(AI顧客)  
AI提供者が提供するAIの製品又はサービスを使用する組織
- 上記の組み合わせ



\* AIの目的：組織が開発・提供・使用するAIで達成したいこと

出所) <https://www.meti.go.jp/press/2023/01/20240115001/20240115001.html>

# 各国の認定機関によるAIMS認定

国名	認定機関名称	認定開始状況
日本	ISMS-AC	2認証機関を認定
米国	UAF	3認証機関を認定
米国	IAS	9認証機関を認定
米国	ANAB	11認証機関を認定
韓国	KAB	6認証機関を認定
オランダ	RvA	3認証機関を認定
インド	NABCB	2認証機関を認定
シンガポール	SAC	2認証機関を認定
オーストラリア・ ニュージーランド	JASANZ	2認証機関を認定
英国	UKAS	2024年9月からパイロットを開始
トルコ	TURKAK	7認証機関を認定

# AIMS認証を取得した組織の例

国名	認証取得組織名	認証機関
日本	株式会社Godot	SGSジャパン
日本	株式会社NTTデータグループ	テュフ ラインランド ジャパン
日本	i-PRO株式会社	BSI
米国	Amazon Web Services, Inc.	Schellman Compliance
米国	Google LLC	Mastermind
米国	Microsoft Corporation	Mastermind
米国	ORO Labs	Mastermind
米国	Cognizant	DNV
韓国	LG Electronics	KSA
韓国	SAMSUNG SDS	KSA
中国	OrionStar Robotics	SGS
オーストラリア	KPMG Australia	BSI
インド	Infosys	TÜV India

ご清聴ありがとうございました

ISMS-ACは、デジタル社会における  
適合性評価の基盤として活動して参ります



一般社団法人情報マネジメントシステム認定センター  
(法人番号:9010405016615)